

## 柳教授退任記念号の刊行に寄せて

附属研究所所長 久万田 晋

柳悦州教授は、昭和 62（1987）年に美術工芸学部助手として採用され、平成 2（1990）年から附属研究所伝統工芸部門専任講師に転任され、平成 6（1994）年に助教授、平成 15（2003）年には教授となり、これまで通算 31 年間勤務されてきた。

平成 2（1990）年 4 月、附属研究所はそれまでの専任教員 3 人体制を拡充することとなり、三部門各々に両学部から 2 人の兼任教員を加えて研究体制を大幅に強化した。柳先生は、その中で伝統工芸部門を率いて、沖縄・アジア各地域の伝統工芸研究に邁進されてきた。私は同年 10 月に附属研究所伝統芸能部門の専任教員として着任し、それから今日までの 28 年間、先生と共に附属研究所の調査研究活動に従事してきた。その間、一般県民向けの公開講座・文化講座、タイ・ラオスの民族文化調査、沖縄県内僻地離島を廻る移動大学など多くの事業を、柳先生、そして平成 27 年度で退任された波照間永吉先生（現名誉教授）と一緒に立て立案、計画、実施してきた。先生とは専門分野が異なるとはいえ、これらの事業を通じて先生と多くの時間を共にし、その中で先生の温厚で誠実な人柄に触れ、親しくしていただいたことが私の人生の大きな財産となっている。

先生の研究業績については、これまでに『鎌倉芳太郎資料集第一巻 紅型型紙（一）』（2002 年）、『鎌倉芳太郎資料集第二巻 紅型型紙（二）』（2003 年）、『鎌倉芳太郎資料集第三巻 紅型見本・裂』（2015 年）、『田中俊雄蒐集沖縄織物裂地日本民藝館所蔵沖縄染織品第一巻』（2016 年）、『沖縄の織物 日本民藝館所蔵沖縄染織品第二巻』（2017 年）等を編集・執筆された他、『沖縄芸術の科学』等の学術雑誌に多数の沖縄・アジア染織工芸関連の論文を執筆されてきた。こうした沖縄染織研究を核としたアジア全域に対する広く深い学識によって、現代を代表する沖縄工芸研究の第一人者として全国的、世界的に認められている。これらの業績の詳細は、本号所収の業績一覧をご覧いただきたい。また大学運営において

も、附属研究所長（2009年度～2012年度）、芸術文化学研究科長（2012年度～2015年度）を歴任され、本学の学術的研究の要として大きな貢献をされてきた。

2018年1月に本学附属図書・芸術資料館にて開催された柳悦州教授退任記念展における柳先生の諸作品にあらわれているように、先生は日本民芸の理念と美意識を深く体得され、追求し続けてきた織物作家である。それと同時に、同記念展に展示された蒐集資料にあらわれているように、沖縄にとどまらずアジア・ユーラシア各地の染織工芸の広大で奥深い世界を探求する最前線の研究者である。工学博士としてのきわめて緻密で実証主義的な研究姿勢は、芸術家肌の教員が多い本学の中では異色かつ貴重な存在であり、実技指導を受けた学部生にとどまらず、論文指導を通して修士・博士課程の大学院生たちにも多大な薫陶を与えてきたことは衆目の一致するところである。

今後とも柳先生のご研究と創作の世界がますます深まり、豊かなものとなられることを願ってやまない。